

[授業の目的・内容・進め方・履修上の条件等]

国際政治経済諸問題をより深く理解する能力を育てる。その際経済学的な分析方法・視点を身につけることを重視し、また何らかの点で貧困に関わる問題にも触れたい。経済学をベースにした文献、場合によっては国際経済学または開発経済学の少しレベルの高い教科書を読んで討論する予定だが、最終的には授業の参加者と相談の上決定する。経済学の基礎的知識があることが望ましいが、そうでない場合、学部開講の国際経済学 1,2 及び国際政治経済論 1,2 を併せて受講することが勧められる。

[評価方法]

ゼミでの割当の発表、毎回の参加の度合い及び発言内容等で総合的に評価する予定。場合によってはタームペーパーも要求する。

< テキスト >

Ray, D. (1998), *Development Economics*, Princeton University Press

経済発展論の学部 4 年または大学院 1 年程度のテキストであるが、国際貿易論や成長論等幅広く取り扱っているため、国際政治経済学のテキストとしても使用可。これを用いる理由は、(貧困を念頭に置きながら) 経済学的な扱い全般について理解を深めると同時に、特に経済学的な分析方法を重視し、モデル分析的な方法、発想に慣れることをも目指す。

初回の相談で変更するかの姓は若干ある。

< やり方 >

原則として参加者全員はその回の予定分を読んでおく。毎回のクラスでは担当者はレジメを用意した上で原則として45分以内で要点をプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは、論述的な部分は自分が重要だと思える点だけでよいので、必要に応じてテキストの図や表の説明をしながら必ず45分以内におさえること。モデルについては、モデルのメカニズムがわかるように必要に応じて図を板書しながら説明すること(出来る限り数式を使わずに)。この場合は難しいモデルの場合は時間がかかる可能性もあるので、45分を超えても仕方がない。なおモデルと論述の部分が混ざっている場合は、モデルを中心に説明すること(論述的な部分は読めばわかるので)。なお、後半の45分は、担当者以外がわからないことを担当者に質問し、担当者は責任を持って答えること(そのため担当者はきちんと準備しておくことが要求される)。担当者が回答できない場合は、別な参加者で答えることができる(評価アップ)。誰もわからない場合は私が答える。また必要に応じて私が補足説明をする。原則として予定どおりに進めたいのでモデルが多かったり、説明に手間取ったりする場合は、時間を1時ごろまで延長して行う可能性がある。それでも終わらない場合は、次回にずれ込むこともある。

<内容>

主要テキスト:Ray, D. (1998), *Development Economics*, Princeton University Press

難易度: 簡単 少々難 かなり難

本書に含まれるモデルについて一応ピックアップしてみました。一部正確でない部分もあるかもしれない。その場合担当者が実際に読んで判断すること。

各章でのさらに詳しい参考文献は、Rayにあるので、関心のある人はそれを読むこと。

1) 貧困問題(経済発展論)概観: 1回(場合によっては2人で)

× Ch.1 (各自で)

→ Ch.2 Economic Development: overview, pp7-44

(モデルなし)

GNP,GDP について全く知らない人がいれば下記のいずれかを読んでおくこと。

スティグリッツ (2001) 『マクロ経済学 (第二版)』(藪下、秋山他翻訳) 東洋経済新報社、pp61-102。

浅子他 (1993) 『マクロ経済学』新世社、pp5-15

<経済学における一般的経済成長理論> Ch.3,4 を順番としてはやりたいところだが、理論的に少々難しいので最初から嫌気をさされても困るので後に回します。このため<歴史と期待の役割> Ch.5 も後に回すこととなりますが、歴史認識については下記のとおり早めに考えておいた方がよいでしょう。

2) 所得不平等: 3回(Ch.6、 Ch7:197-217、 Ch7:218-241)

→ Ch.6 Economic Inequality, pp169-193

・ローレンツ曲線とジニ係数の説明はきちんと行うこと。

→ Ch.7 Inequality and Development: Interconnections, pp197-241

241-247 はパス

・グズネッツの逆U字。

・逆U字のテスト(少し難しい)

・Fig 7.5

・Occupational Choice and the Credit Constraint と Wealth distributions and equilibrium の中にそれぞれモデルがありそう。

3) 貧困: 1回(場合によっては2人で)

→ Ch.8 Poverty and Undernutrition, pp249-290

長いけど概論的なのでさっと。

× Ch.9 Population Growth and Economic Development, pp295-340

関心のある人は読んでおくように。

4) 農村都市間労働移動: 3回(345-347,353-372、 372-398、 残り)

→ Ch.10 Rural and Urban, pp345-347,353-398

348-352 はパス(各自で)

・Lewis Model

- ・ Lewis-Ranis-Fei Model
 - ・ Harris-Todaro Model
 - ・ Harris-Todaro の応用及び拡張
- <参考>下川 (1998) 「都市インフォーマルセクターでの事業機会と農村都市間労働移動
フィリピン経済のケーススタディー」『アジア経済』、39(6)、pp23-42.

5) 国際貿易理論 (基礎): 1回

→Ch.16 International Trade, pp622-644

講義の内容とほとんど一緒だが、表現の仕方が違うのでこの説明にも慣れてもらう。

- ・ リカードモデル (比較優位)
- ・ ヘクシャー・オリーンの契約曲線を使った表現

6) 貿易政策: 3回 (Ch17:647 - 676、 Ch17:676 - 705、 Ch.18)

→Ch.17 Trade Policy, pp648-705

- ・ Import Substitution の説明、為替レートへの影響、不完全情報の際、動学的利益
- ・ Export Promotion の説明

構造調整プログラムや IMF, WB については以下の本も参考にした方が良い。

Stiglitz (2002), Globalization and its Discontents (Ch.3,4 のみで十分か), ALLEN LANE(翻訳:『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』徳間書店:ただし表題のつけ方及び翻訳はかなりひどい)。

→Ch.18 Multilateral Approaches to Trade Policy, p711-754 (一部)

- ・ Coordination Game
- ・ Trading Block はモデルか?

前期にやれるのはだいたいこのくらいでしょう。もし後期が同じメンバーならば、この本を続けても良いかもしれませんが。または夏に自習が特別ゼミ等もありうるかもしれませんが。とりあえずリーディングガイド・目安を書いておきます。

<A案> 発展途上国の市場が不完全性に注目した議論を中心に

- × Ch.11 Markets in Agriculture: An Introduction, pp403-414(ざっとやるか各自読む)
- × Ch.12 Land, pp415-481 (関心のある人は読むこと)

7 A) 労働市場: 1回

→Ch.13 Labor, pp483-500

- ・ 悪栄養状態の均衡モデル (貧困の罠)
- ・ 上記モデルの市場均衡

500 - 524 はパス

8 A) クレジット市場: 3回 (529-553、 561 - 586、 時間があまれば下川)

→Ch14. Credit, pp529-586

- ・ Lender's Risk Hypothesis
- ・ Default and Collateral

- ・ Default と Credit Rationing
- ・ Informational Asymmetries and Credit Rationing
- ・ Interlinked Transaction model

<参考>下川 (1999) 「インフォーマルセクター生産財市場の競争政策：小規模事業家の市場アクセスの改善」『アジア経済』、40(2)、pp2-18.

<参考>下川 (2001) 「インフォーマルセクターにおけるクレジット及び市場へのアクセスの改善：インターリンケージ取引の存在する場合」『アジア経済』、42(8)、pp27-52.

× Ch.15 Insurance, pp592-617

< B案> 現代のマクロ経済学の2つの中心テーマのうちの1つである経済成長論を中心に。

7 B) 経済学における一般的経済成長理論：3回 (Ch3.1, 3.2。 Ch3.4, 3.5。 Ch4)

→ Ch.3 Economic Growth, pp47-84,88-90 :

84-94 はパス。

- ・ Harrod-Domar Model (数式の説明もすること)
- ・ Endogeneity of Population Growth (図で説明)
- ・ Solow Model (図と数式で説明)
- ・ Technical Progress (図：必要ならば数式)

この箇所を難しく感じる人は、まず下記を読んでからのほうが良いかもしれない。

浅子他 (1993) 『マクロ経済学』新世社、pp301-312

→ Ch.4 The New Growth Theories, pp99-107 (余力があれば-116) 117-125 :

107-116 はパス可。

- ・ Human Capital Model
- ・ A model of deliberate technical progress
- ・ モデルではないが Total Factor Productivity の説明はきちんと行うこと。

8 B) 歴史と期待の役割 (ただし狭い意味): 1回

→ Ch.5 History, Expectations, and Development, pp131-161 (一部)

- ・ 5つある Fig の説明をきちんと行うこと。

近代経済学ではこのようなトピックスを扱うのは新しい。しかし、本当はもっと大きな歴史認識が必要 (純粋な近代経済学において普通はこの部分が抜け落ちている)。これについて関心があれば、下記の文献が良いのではないかと。なおアンソレーナ氏の本は学問的な記述ではない。

峯陽一 (1999) 『現代アフリカと開発経済学』日本評論社、「第一章：歴史への視座」、pp3-30 (余力があれば全体を読んでもよい。歴史学の専門家でもある (近代) 経済学者)

アンソレーナ他 (1992) 『スラムの環境・開発・生活誌』明石書店、「第一章：南に広がるスラム (特に 2,3 節)」、pp22-48

他に何か良い本知っている人がいたら教えてください。

****後期について*****

案1) 後期は、修士論文等執筆の中間報告を優先させて行うが、その合間に、もしメンバーが同じ場合はこのテキストの続きをやっても良い。

案2) 後期は、ケーススタディということなので、テキストをやめて、スティグリッツの“Fair Trade for All”という本やバグワッティの「グローバリゼーションを擁護する」という本を読んでも良い。

案3) 途上国スラムでの貧困者の活動を中心とした論文等を読んだり、私の最近の報告をやったりしても良い。

後期も続けて参加したい人の意見を募集中

***** <2006 年度国際政治経済研究 1 : 報告分担表 > *****

下記の2倍の人数を割り当てて、相談しながらやるということも可。

4/13 : イントロダクション

4/20 : 1) 貧困問題(経済発展論)概観 : 1人 or 2人

Ch.2 Economic Development: overview, pp7-44

4/27 : 2) 所得不平等 : 1人

Ch.6 Economic Inequality, pp.169-193

5/11 : 2) 所得不平等 : 1人

Ch.7 Inequality and Development: Interconnections, pp.197-217

5/18 : 2) 所得不平等 : 1人

Ch.7 Inequality and Development: Interconnections, pp.217-241

5/25 : 3) 貧困 : 1人 or 2人

Ch.8 Poverty and Undernutrition, pp.249-290

6/1 : 4) 農村都市間労働移動 : 1人

Ch.10 Rural and Urban, pp.345-347, 353-372

6/8 : 4) 農村都市間労働移動 : 1人

Ch.10 Rural and Urban, pp. 372-398

6/15 : 4) 農村都市間労働移動 : 残り

6/22 : 5) 国際貿易論基礎 : 1人

Ch.16 International Trade, pp.622-644

6/29 : 6) 貿易政策 : 1人

Ch.17 Trade Policy, pp. 647 - 676

7/6 : 6) 貿易政策 : 1人

Ch.17 Trade Policy, pp.676 - 705

7/13 : 6) 貿易政策 : 1人 or 2人

Ch.18 Multilateral Approaches to Trade Policy, p711-754